

たんぼぼささえたい 2022. 5. 24 出席者 14 名

○「担い手」をテーマに意見交換

- 民生委員、消防団、地区役員、子ども会などの「担い手」探しに苦労している
  - どんな内容の活動をしているかが町民に伝わりにくい
  - 担い手になるきっかけはさまざま
  - 知り合いがいると引き受けやすい
  - 「楽しい」ことだとやってもらえるのではないか
  - 担い手になってくれる人を探せるようアンテナを張っている
  - 担い手をお願いするときは、数人をお願いするとよいかもしれない
- 
- 「二宮農園」など新しい世代の移住者が増えている
  - 新しい世代がどのような活動をしているかがわかりにくい
  - 移住者同士のコミュニティーは広がっているようだ
- 
- これまで町で行っている活動（町内会、消防団、神輿会など）が一覧でわかるようなものがあるとよいのではないか
  - 移住のタイミングで町内会などの情報が届きやすい仕組みが必要
- 
- 既存の「担い手」と、新しい世代の考える「担い手」にギャップがある
  - P T A活動への参加が任意になったように、世代による地域活動への意識が変わってきている
- 
- 既存の担い手は地域に属しているものが多い
  - 新しい世代の考える担い手は、自分たちの興味関心に属しているものが多いようだ
  - 新しい世代はSNSでつながっている傾向がある
- 
- ⇒
- 町役場などで、既存の団体や新しい団体などを集約する方法を検討
    - 2層の協議体で、新しい世代や団体から話をきく機会を持つ

クローバーの笑・和・輪 2022. 5. 26 出席者 16名

◎「担い手」をテーマに意見交換

○民生委員の担い手探しは難しいが、こんな工夫をしている

- ・早めに声をかけておくこと
- ・普段からアンテナを張っておくこと
- ・どんな内容の活動をしているか伝える  
⇒内容がわかることで、敬遠してしまう人もいるだろう

○こんな工夫を今後考えたい

- ・新たな担い手を、経験者がサポートする仕組み  
※経験者と未経験者が同時期に動けるような引継ぎ体制  
※同じ役割を担う人を増やす（民生委員を二人体制で行うなど）
- ・担い手になった人が活動しやすい体制を整えたい

○「担い手」不足の原因は、定年が伸びたことと、社会全体が個人主義になったことではないか

○社会全体が変化している。人とのつながり、家族関係の変化などを踏まえ、既存の仕組みを改めて見直す必要もあるのではないか

○新しい世代に合わせた仕組み作りが必要ではないだろうか

○担い手を探すだけでなく担い手になりそうな人とつながる機会を持つことも大切

- ・「こんなことをやっているよ」と伝えることで、興味を持って近づいてきてくれる人もいるのではないか
- ・場を開くことで自然とつながれる機会を作れるのではないか

⇒・人とつながる機会や場を増やす

- ・既存の団体や活動を見直す